

奈良に愛!をはぐくむ会 代表

西田一美

愛が、あります。



奈良に愛!を
はぐくむ会

会報 Vol. 1

- 編集 / 奈良に愛!をはぐくむ会
代表: 西田一美
- 発行日 / 2019年3月18日

西田一美 プロフィール

- 1961年 室生村に生まれる
- 1981年 室生村役場入職
- 2004年 自治労室生村職員組合 執行委員長
- 2005年 自治労奈良県本部副執行委員長
- 2006年 宇陀市市民環境部
人権施策課 課長補佐
- 2007年 自治労中央本部 執行委員
- 2017年 連合奈良 会長

- 趣味 / 音楽鑑賞
- 好きな食べ物 / 古都華(奈良苺)、豚キムチ鍋
- 好きなスポーツ / フィギュアスケート
- 好きな曲 / 「生きる」(関ジャニ∞)



「何があるのですか?」「愛が、あります。」

(馬淵) 西田さん、「愛が、あります。」のメッセージはどういう意味がおありなのでしょうか?

(西田) 私は旧室生村の出身で、一人娘だったので両親には過保護に育てられてきました(笑)。とりわけ、母は、今で言えばスーパーウーマン(笑)、美容師の資格も持ち地域のお世話など何でもできる人でしたが、一方、夫である父を支え子育てをし、家を守る要の人でした。そんな、母の求めに応じて、私は理想の娘で育つことが一番と信じてきたのですが、母の性格を受け継いできたのか、

おかしなこと、理不尽なこと、に黙ってられない!と行動するようになっていきました。

やがて、室生村役場に就職して、女性が働く現場での生き辛さのようなものに直面し、黙ってはいられない、何とかしなければ、と声を上げたのが、今、振り返れば、私の政治的な行動の原点だったかもしれません。

(馬淵) 声を上げたのは、どんなことでしたか?

(西田) お茶くみ、制服など、当時でいえば、職場の上司や同僚達が「エッ?」と驚くような、たわいもないことと一笑に付されること

だったかもしれません(苦笑)。更に、出産子育てしながらの女性の働き方などについても声を上げていきました。

今は、職場のパワハラ、モラハラ、セクハラと、人の尊厳を脅かすような行動は、コンプライアンスの名の下に厳しく規制されるようになりましたが、当時は「女の子」と称される職員が、異論を唱えるなどあり得ませんでした。でも、私は、母から、理不尽なことに対しては絶対に怯まず立ち向かわなければいけない、と行動する

母の姿を見て育ちました。だから、とにかく、職場の女性達の思いをどんなことがあっても、キチンと、届けたい!と信じていました。

(馬淵) それは、正義感からですか?

(西田) うーん... そんな、大それたことではないです(笑)。気がつけば行動して...。

黙ってしちゃダメ、みたいな。見逃しダメみたいな。空振り三振は良いけれど、見逃し三振は絶対ダメ、と思ってました。

(馬淵) 野球部のマネージャーかなにかされてました?

(西田) いえ、中高時代は、バレー部です(笑)

(馬淵) そー、なんですか! (笑)

(西田) でも、この考え方はずっと一貫しています。室生村の職場からやがて自治労本部、連合奈良の役職と、職歴を重ねる中で見逃し三振のみならず、女性が社会で頑張るためには、経験する機会を逃さないためにも絶対に断ってはダメ!と思うようにもなりました。子育てや夫や親との関係で、仕事におけるチャンスを失う女性はたくさんいます。でも、決して自らそれを断るのではなく、立ち止まって、断らない状況を作れないか?と考えることの重要さも学ぶことができました。

(馬淵) その断らない、も見逃しはない、仲間を守るためだった?

(西田) はい!私は、寄り添って、聞いてあげて、その声を届けることしかできません。でも、それをするためには、誰よりも、その人のことを思う、気持ちがありました。だから、私は、訴えたい。あまりにも今日の強欲的な社会、独善的な政権運営。チョット待って!と声を上げたい人はたくさんいらっしゃいます。力不足、と言われることがあるかもしれませんが、私には、「愛が、あります!」。

(馬淵) うーん!愛が、ありますね!西田さんの正義感には「愛」がありますね!もっと、もっと、聞かせてください!ありがとうございました。

西田一美「愛ある正義」

① 「ひとりひとりが輝ける社会へ！」

私は、自然豊かな奈良県室生村で生まれ育ちました。人と人が支え合う村で働き、育まれ、人はどんな環境に生まれても、無条件に等しく、尊厳ある人生を生きる権利があることを学びました。しかし、社会人となって、職場での女性の立場を知り、結婚、出産、育児、離婚、乳がん闘病など様々な経験を経て、解決しなければならない課題に直面し、その解決に取り組んできました。私は、ひとりひとりに寄り添い、その思いを届けることができる経験を積んできました。全てのひとが、輝ける社会を創る!それが私の使命です。

② 「子どもが一番!」未来に夢・希望・平和を繋ぐ

かけがえのない、未来を託せる子どもたち。

私は、二人の娘の母として、また働く母として、次代を担う子どもたちに、安心・安全に暮らせる平和な社会を引き継ぎたいと強く思うようになりました。妊娠・出産・育児などで悩む女性たちに寄り添い、子どもたちの未来への責任を果たすために活動を続けてきました。

今、子どもの7人に1人が貧困と言われ、近親者からの虐待や暴力の報道が連日なされています。

私は、子どもたちが未来に夢と希望の持てる、平和な社会を繋ぐため、「子どもが一番!」に全力を尽くします。

③ 「生きるために働く!」

全ての職場に、この時代と社会を支える知恵と技術と結束があります。それは、働く人々によって支えられています。

しかし、残念ながら一方で、働き過ぎによる過労死や、メンタルダウンからの離職、職場のハラスメントなど命に関わる課題が明らかとなってきました。今、日本の職場が脅かされようとしています。私たちは、豊かな人生を生きるために働くのであり、働くために生まれてきたものではありません。私は、尊厳ある働き方を全力で守り、いのちをまもりまします。

